

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 青木 祐一郎  
学位 博士(学術)  
学位記番号 新大院博(学)第76号  
学位授与の日付 平成26年3月24日  
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当  
博士論文名 『ユダの福音書』再考  
—新たな救世主像とユダ像の提示による考察—

論文審査委員 主査 教授 高橋 秀樹  
副査 教授 松本 彰  
副査 教授 細田 あや子

博士論文の要旨

本論文は、先行研究の再考を通して『ユダの福音書』という古代キリスト教文書が伝える思想内容を明らかにすることを目的としたものである。『ユダの福音書』は研究の初期からユダの人物像に注目が集まり、ユダの人物像研究から福音書本体へのアプローチが行われた。しかしユダの人物像研究では異なる二つの立場からの研究が現れたものの統一した見解は得られておらず、福音書の性格についての考察も研究者間の見解はまちまちである。そこで本論文では、ユダの人物像以外の視点を導入することによって『ユダの福音書』を再考察することとした。導入した視点とは、思想、イエスの弟子たちの人物像、イエスの人物像、ユダの人物像の四つであり、各々に一章を当てて考察している。

構成は以下の通りである。

序章 『ユダの福音書』の課題

1. 『ユダの福音書』概略
2. 研究動向
3. 問題提起

1章 『ユダの福音書』の思想

1. 本章のねらい
2. 『ユダの福音書』のグノーシス主義神話
  - 2-1. 神論・宇宙論
    - ①至高の神の領域の形成(47.1-48.21)
    - ②アダマスとセツの朽ちない世代の誕生(48.21-50.21)
    - ③下界の成立(50.22-52.13)
      - ③-1. 天使エーレートの出現

③-2. ネブローとサクラスの出現と「ソフィア神話」

③-3. アルコーンのリスト

④人間の創造(52.14-53.7)

2-2. 人間論

3. 小括—他のグノーシス主義思想との比較考察—

2章『ユダの福音書』における弟子たちの人物像—ユダと他の弟子たちの対比から—

1. 本章のねらい

2. 十二人の祭司たちとしての弟子たち

3. ユダとの対立の構図から見る弟子たちの人物像

4. 小括—『ユダの福音書』に見る「正統派」像—

3章『ユダの福音書』の救世主像

1. 本章のねらい

2. グノーシス主義文書における救世主像類型

2-1. グノーシス主義の霊肉論類型

3. 「人間に着られる」救世主— 56.19-22 を中心に—

3-1. 先行研究における  $\phi o p e i$  の解釈

3-2. 『ナグ・ハマディ文書』(NHC)での  $\phi o p e i$  の用例

3-3. 『ユダの福音書』における  $\phi o p e i$  の用語法考察

4. 『ユダの福音書』の救済

4-1. 「人間を着る救世主」と「人間に着られる救世主」

4-2. 救済方法

4-3. 十字架と「光の雲」の役割

5. 小括—「人間に着られる」救世主像の位置付けと機能 —

4章『ユダの福音書』のユダ像

1. 本章のねらい

2. 本文解釈上の問題

2-1. 44.18-23

2-2. 46.5-7

2-3. 46.14-47.1

2-4. 55.21-56.24

2-5. 57.21-58.1

3. 先行研究再考—ユダは英雄か悪魔か—

4. 小括 —『ユダの福音書』のユダの人物像の特質—

終章『ユダの福音書』の著作目的と今後の展望

1. 総括

2. 『ユダの福音書』の著作目的・対象

2-1. エイレナイオス『異端反駁』I .31.1 の報告との比較

2-2. 『ユダの福音書』の作成年代

2-3. 『ユダの福音書』の著作目的

2-4. 『ユダの福音書』の教えの対象

## 2-5. 結論

### 3. 今後の展望

資料1 グノーシス主義文書の霊肉論類型

資料2 『ナグ・ハマディ文書』(NHC)における  $\phi o p e i$  の用例

資料3 NHC コプト語原文底本リスト

#### 参考文献

序章では、先行研究の状況と、その問題点を指摘し、ユダの人物像以外の視点を導入することによって『ユダの福音書』を再考察するという本論文の課題を示している。

1章では『ユダの福音書』のグノーシス主義思想を分析することで、この福音書の思想の特徴を明らかにするとともに、他のグノーシス主義文書との思想的な繋がりを確認することを試みている。その結果、『ユダの福音書』には大いなる見えざる霊に始まる特定の神話系統があり、その神話系統はグノーシス主義思想の内ではセツ派の思想に近いこと、しかし他方で、『ユダの福音書』には他のセツ派文書に見られる個別の思想が省略・変更されていること、こうした省略は、省略された内容が読者にとっては既知のものであることを前提にしたものであると推測されること、が示されている。

2章ではイエスの弟子たちの人物像、特にユダ以外の弟子たちの人物像を考察することを試みている。その結果、『ユダの福音書』では、ユダを除く弟子たちはイエスを知らない無知蒙昧の輩として現れていること、他方、ユダが他の兄弟弟子たちより優れた人物とされており、ユダと他の弟子たちの差は、イエスを理解しているか否かに求めることが出来ること、弟子たちが理解していない、出来ていない事柄は、救世主イエスの死であり、弟子たちはその誤った理解を基にした犠牲の神学を教え、イエスの犠牲の死を回顧するための聖餐式を行っており、この点を『ユダの福音書』が激しく非難し、否定していること、等が確認できるとしている。

3章では『ユダの福音書』56.19-22の本文分析から、イエスの人物像、救世主像を考察することを試みている。結論として『ユダの福音書』が伝える救世主像は、他のグノーシス主義思想には見られない特異な救世主像であること、その独特な救世主理解に基づいて、『ユダの福音書』は弟子たちに代表される「正統派」キリスト教の教義を否定していること、が確認されるとしている。

4章ではユダの人物像を、先行研究で見解が対立している部分を取り上げ、福音書本文分析を通して批判的に考察することを試みている。福音書内のユダは、相対的な評価がされていること、先行研究が言う英雄や悪霊といった特別な人物評価がされていないこと、イエスの引き渡しの動機はユダ自身が持つものではないこと、『ユダの福音書』がユダを福音の対象にした文書ではないことなどが確認できるとしている。

最終的な結論として、『ユダの福音書』を次のような性質の文書であると述べている。『ユダの福音書』とは、紀元二世紀後半までに原型が成立し、その後複数の編集段階を経て四世紀までに現在の形となったキリスト教の「異端」文書である。そしてこの福音書は、世界の真理とイエスの死の本当の意味の啓示と啓示による読者の救済への促し、そして真理の啓示による誤った「正統派」の教義の否定を目的として著されたものである。

また本稿では先行研究を批判的に考察することにより、イエス像・救世主像とユダ像の新たな解釈も示されている。『ユダの福音書』のイエス像・救世主像は他のグノーシス主義文書には見られない特異な「人間に着られる救世主」像であり、「正統派」の教義を否定する機能を持つ。またユダは非常に相対的な人物像であり、『ユダの福音書』が提示する異なる方向性を持つ論点はユダの人物像の内に結び付けられている。

#### 審査結果の要旨

以上のような本論文は、先行研究の動向を的確に把握し、その問題点を、丁寧に原典にあたることによって解決しようとするものである。添付された資料も綿密な作業によって作成された有益なものである。これらの成果は、先行研究の再考を促すものであるとともに、『ユダの福音書』解釈の新たな方向性を提示するものと言うことができ、より一層の『ユダの福音書』研究の進展を促すものと期待される。

以上のことから、博士(学術)の学位を授与するに値するものと判断した。